



キク編

病害虫注意報 2023年7月号



※農薬の使用はラベルの記載に従ってください。

土壌病害

---予防と対策---

高温に伴い、各種病原菌による土壌病害が発生しやすくなります！

- 〈対策例〉
- ①適正な水管理を行う
 - ②遮光剤等による高温対策
 - ③活着促進資材を使用
 - ④予防薬剤を使用する

萎れ症状等で根傷みの兆候がある場合は早急に酸素剤の使用など、根の回復に努めましょう！

FRAC	対象病害・使用目的	薬剤名	希釈倍数・使用量	処理方法
14	立枯病	リゾレックス水和剤※	500～1,000倍 3L/m ²	土壌灌注(生育期/5回)
4,11	立枯病 (リゾクトニア菌)	ユニフォーム粒剤※	18kg/10a	土壌表面散布 (定植時または生育期/3回)
32	発根促進	タチガレン液剤	1,000倍 5～10L/m ²	土壌灌注 (挿し芽直後/1回)

立枯病にはこれ！
おすすめです！



ユニフォーム粒剤

きく登録：9～18kg/10a
定植前/全面土壌混和
(白さび病同時防除)

特徴

- ▶定植前(きく登録)、定植時・生育期(花き類・観葉植物登録) →**どのステージでも使用可能！**
- ▶**2種類の有効成分**(アゾキシストロビン・メタラキシルM)で立枯病【リゾクトニア属菌】を予防

※花き類・観葉植物登録

今月のおすすめローテーション



地域の防除事例を基に作成しています(輪菊栽培)。品種、栽培条件によっては薬害が発生する場合がありますためご注意ください。さらに、展着剤・葉面散布剤等を加用する場合もご注意ください。

時期	RAC	対象病害虫	薬剤名	使用量・希釈倍数	使用時期	回数
定植時	P02	白さび病	予 inochioキクツチャ粒剤	6～9kg/10a	定植時	1回
生育初期	M03	白さび病	予 アントラコール顆粒水和剤	1,000～2,000倍	発病前～ 発病初期	6回
	23	アザミワタ類・アブラムシ類 ハダニ類	inochioセイレーンフロアブル	2,000倍	発生初期	3回
消灯時	11	白さび病	予・治 inochioオペラフラワー乳剤	2,000倍	発病初期	3回
	6	アザミワタ類	アファーム乳剤	1,000～2,000倍	発生初期	5回
発蕾時	3	白さび病	予・治 ラリー乳剤	3,000倍	発病初期	5回
	30	アザミワタ類・ハダニ類 オオタバコガ・ハスモンヨトウ	グレース乳剤	2,000倍	発生初期	2回
破蕾時	7	白さび病	予・治 カナメフロアブル	4,000～8,000倍	発病初期	3回
	34	アザミワタ類	ファインセーブフロアブル	2,000倍	発生初期	2回

土壌病害の違い

病名	半身萎凋病	萎凋病	立枯病	フザリウム立枯病	ピシウム立枯病
菌	<i>Verticillium dahliae</i>	<i>Fusarium oxysporum</i>	<i>Rhizoctonia solani</i> など	<i>Fusarium solani</i>	<i>Pythium aphanidermatum</i> など
導管褐変	あり	あり	導管を含め、褐変が茎表面から発生する。	なし	なし 地際部の表面が褐変

➡ 被害状況によっては、**土壌くん蒸剤による防除、土壌の物理性改善、環境制御**も意識して総合的に防除しましょう。